

尾鷲市農業委員会 令和4年5月定例会 議事録

1. 開催日時：令和4年5月6日（金）午前10時00分から午前11時00分
2. 開催場所：尾鷲市立中央公民館2階講座室A
3. 出席委員（7名）

会長	6番	高村	敦夫
委員	1番	船津	貫一
	2番	野田	泰史
	4番	塩津	史子
	5番	庄司	和稔
	7番	野地	長生
	8番	大川	治夫

農地利用最適化推進委員	北村	都志雄	欠席
	濱野	薫久	

4. 欠席委員
- | | | |
|----|---|----|
| 3番 | 黒 | 次美 |
|----|---|----|

5. 議事日程

1. その他

- ・有機農業産地づくり推進緊急対策事業について

6. 農業委員会事務局職員

事務局長	芝山	有朋
事務局次長	野田	憲市
事務局書記	大川	健志

7. 会議の概要

議長

みなさんおはようございます。定刻となりましたのでただいまから令和4年5月定例農業委員会を開催します。よろしくお願いいたします。本日の署名委員は2番の〇〇さん、4番〇〇さんよろしくお願いいたします。なお、欠席委員は〇〇さん、農地利用最適化推進委員の〇〇さんです。

本日は審議案件がございませんので、3番その他で有機農業産地づくり推進緊急対策事業についてを事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局次長

はい、みなさん連休の狭間でお忙しいところありがとうございます。それではその他の事項で6月補正で事業を予定しています、有機農業産地づくり推進緊急対策事業についてみなさんに情報共有させていただきたいと思います。少し難しいところもございますので、前段でそれまでの経緯や国の動向などを私の方から説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。

資料を1枚めくっていただいでよろしいでしょうか。令和3年度補正予算、令和4年度当初予算の概要とありますが、農林水産省の出している資料となりますが、ここにみどりの食料システム戦略と書かれています。このこと中心に経緯を説明させていただきたいと思います。温暖化や異常気象、大規模な自然災害などによって世界的な環境保全の動きが高まっています。その中で2050年までに当時の菅総理大臣がCO₂の排出量を実質0を目指すと、ゼロカーボンニュートラル宣言というのを行いました。翌年の環境サミットです、日本のCO₂の排出量を2050年までには0なのですが、2030年までに46パーセント削減、約半分減らしていきたいということを世界に発信しました。総理大臣からこのような具体的な数値目標が出ることによって、自治体、企業など各地でCO₂の排出量の削減は加速しています。環境省においてもゼロカーボンシティ宣言をした地方公共団体には支援を強化すると表明されてまして、尾鷲市においても100年後も美しいふるさと尾鷲を残していくために、環境に配慮したまちづくりを進めていくとして市長の方から尾鷲市ゼロカーボンシティ宣言を3月に行いました。尾鷲市もいろんな政策も環境に配慮して取り組んでいくという宣言を行いました。もちろん農林水産省の方にも一次産業も環境負荷に配慮しながら、生産性も同時に向上して、持続可能な食料システムを構築していくことを目標にして作ったのが、みどりの食料システム戦略となっております。ですから、農業だけでなく林業や水産業

も全般的にです。これが昨年5月に農林水産省から発表されました。この戦略の中身については、環境にやさしい低リスクな農薬の開発、技術開発もやっていくとのこと。輸入原料、化石燃料を使用した化学肥料を30パーセント軽減していくこと、耕地面積に占める有機農業の面積を25パーセントに拡大、生産するだけでなく食品の製造業も環境に配慮しながら加工していきましょうというのがみどりの食料システム戦略となっております。概要だけになりますが、まあ今すぐに極端に取り組を進めるというわけではなく、能力の開発や生産技術の開発、そういったものを進めながら中長期的な観点から、環境を守りながら取り組んでいきましょうという計画となっております。みどりの食料システム戦略を進める中で、国では予算が必要になってきますので、緊急予算を確保しまして、全国的に様々な事業が行われ始めました。

資料を1枚めくってください。目次のページになります。色んな対策が行われる中で、有機農業を拡大していく事業がありまして、1枚めくっていただいて、有機農産地づくり推進という資料がございます。今回尾鷲市で取り組んでいく事業がこちらになります。事業のイメージとしては、有機農業でいくら生産を増やしてもそれが売れなければ意味をもたないので、生産、加工、流通の3つをひっくるめて、新しいやり方を考えていくのがこの事業の概要となっております。現在、尾鷲市では有機の農業者が1名おられますが、国から補助金をいただいて有機農業を進めていく上で、令和6年度までに1名から2名にしていきたいなど。令和9年度の後期までには4名の目標で事業をやっていきたいなど考えております。近年、オーガニック食品には関心が寄せられているのですが、今回の国の動きもありますし、更に関心が高まっていくと考えられます。そこで新規就農者の確保にもつなげるということを我々は考えています。ですので決して、現在の農業方法を否定するわけではなくて、新しい分野の有機農業を増やしていきたいと思っております。事業の前置きは以上です。課長何か補足等があれば。

事務局長

はい、ただいま次長からお話ありましたとおり、国の戦略となっておりますので、読み解くのが難しいのですがこのみどりの食料システム戦略は期限は国の方からまだ示されていません。ただ、目標年度が2050年が最終年度、それから2030年の途中年度というような目標設定はされておりますので、少なくとも5年から10年は農林水産省のど真ん中の戦略になると全国では捉えられています。実際農林水産省もそのように説明はさ

れています。その中で、いろんなメニューがありますが、最終的な目標にしているのは2050年までにいかに地球の環境を整えていくかということと、いかに食料を確保するかということになってくると思います。昨日のニュースだったと思いますが、飢餓の問題がウクライナの戦争で一気に浮上しています。ニュースを見てびっくりしたのですが、まさか飢餓が増えているとは思っていませんでしたので、今後の情勢でも現在食物自給率が4割を切っているらしいのですが、そこで食べ物をいかに確保していくかということが国としても課題になっています。そこで、地球温暖化を止めながら、食糧問題に取り組んでいかなければいけないというのを解説したのがこの戦略だと思います。その戦略に基づいてこれからいろんな予算が出てきます。農業を尾鷲市の武器にしていくことができないかと、この2、3年農業はいろんな動きを見せています。現在、尾鷲で農業だと数字的にいえば甘夏がメインとなってきますが、甘夏プラス新規就農や後継者対策とかにどうつないでいくかということなのです。そこも全部織り交ぜながら、上手に予算に結び付けていきたいなと思っております。

農業の部分では有機農業を進めていこうと思っており、国や県とも相談させていただきながら、6月議会に補正予算として組ませていただきました。当面、全額国の補助となりますが、6年度以降で尾鷲市として予算余地が必要であれば、尾鷲市独自の予算を要求していかなければいけないと思っています。今年度は有機農業を進めながら計画を作らせて下さい。有機農業をどうやって進めていくのか、どう売っていくのか、付加価値も考え生産、流通、消費というのをどうやって組み込んでいくのかということ、いろいろ指導を受けながら頑張っていきたいなと思っております。

勝算はないことはないと思います。ゼロカーボンシティ宣言をしました。そして今、いろんな企業が尾鷲市に注目しています。世界的な企業も尾鷲市での取り組みにです。そういった企業も巻き込んでいきたいなと。ちなみに今は農業での分野を話しましたが、漁業でも同じくこのシステム戦略があります。例えば、クロマグロといった大型の魚、養殖に関して、人工栽培したものに切り替えていくといったこともありますし、課題的な部分もどう乗り越えていくかといった感じです。

この食糧戦略は頑張ろうとするところにはお金が出てきますが、何もしなければ課題となってしまいます。尾鷲市としては現在は農業と漁業で、林業に関してはカーボンニュートラルの別のルートで進めるのですが、農業と漁業に関してはこのみどりの食料システム戦略がど真ん中の事業になってきますので、その都度都度です、この取り組みの状況というのをこの農業委員会でもご相談・ご報告させていただきますので、農業者側

からの意見というものを反映させていこうと思っておりますのでよろしくお願ひします。

事務局次長 ありがとうございます。それではですね、少し具体的な予定している事業の取組について大川の方から説明がありますのでよろしくお願ひします。

事務局書記 それでは、有機農業産地づくり推進緊急対策事業について説明します。みどりの食料については先ほど局長及び次長よりお話があったとおりです。その中で尾鷲市は有機農業産地づくり推進緊急対策事業を実施予定であります。実施目的としましては条件不利な中山間地域のため、農業生産性が低い本市において、農業者や加工事業者、市域内外の消費者等を巻き込んで、環境に配慮した有機農業を推進し、農業生産性の向上と農業所得の増加を図り、持続可能な地域農業の確立を目指すこと、また尾鷲市では有機栽培に取り組んでいる農家が1戸あり、新規就農者を中心に有機栽培を志向する農家も現れてきており、市として本格的に有機栽培の推進に取り組む必要があると考えたからです。

事業内容としては専門家等からなる検討会の開催、土地改良資材活用による圃場試験、有機農産物を活用した加工品の開発・販売検証等さまざまです。

有機肥料を推進することにより、農作物をはじめとした商品の高付加価値化が図られ、農業者の所得向上、また、それに伴い若年層や農業未経験者に向けたPR材料になると思われます。有機農業産地づくり推進緊急対策事業に関しましては、6月議会定例会に上程予定でありますのでご報告いたします。何かご質問やご意見がございましたらお答えさせていただきますのでよろしくお願ひいたします。以上です。

議長 はい、ありがとうございます。内容が大きすぎて少し難しいとは思いますが、みなさんどうですか。

〇〇委員 いいですか。

議長

〇〇委員どうぞ。

〇〇委員

現在、有機農業をしている人がいると聞いたのですが、この制度を受けるには何年間か化学肥料を使ってはいけないといった条件が付いているのですよね。そういうのがあると聞いたからそれはそれでいいのですが、S E Aモデルの中で植物工場というのを打ち出していると思うのですが、どこの有機と絡めてその辺はどのようなようか考えですか。

事務局長

はい、S E Aモデルの植物の方は計画が議論が進んでいなくでですね。何ができるかというのを探っているところはあるのですが、具体的に何を栽培するといったところまでは案になっていないのですよ。それができていけばこの事業とどう絡めていくかというのは示せるのですが、農業栽培についてはそこまで詰められていません。もう1つ陸上養殖といった魚類の方も目指しているのですが、そこもまだ地下海水を汲み上げてそれでどこまで育つかといったこともまだ実験段階ですから、今年度はまだ示すことはできません。

〇〇委員

分かりました。ありがとうございます。

〇〇委員

すいません。今現在、有機栽培しておられる方は柑橘関係ですか。

事務局書記

はいそうです。甘夏です。

〇〇委員

この事業をするなら収益の上がる作物を育てるのが1番だと思いますけどね。難しいものを作るのは無理があると思いますから、尾鷲市に合ったものをね。

事務局長

例えばどんな作物がありますか。

〇〇委員 例えば、エンドウ豆とかは簡単にできますよ。収益も取れます。まずは簡単にできるものからね。

事務局 ありがとうございます。このような意見はありがたいです。これからこの事業を行うにあたって農業委員さんにも意見はいただきたいと思いますので随時情報交換は行っていきたいと考えています。

〇〇委員 私も米作りに肥料を使うのですが、田植えの苗にやると済むからね。でもその殻という、プラスチックの部分がすごく流れるのですよね。カスになるのですかね。これが環境破壊の一つに繋がるのかなど。米作り一つにしてもそういった弊害があるんだなと思いますよね。

事務局長 その化学肥料を、2050年までに30パーセント減らしていくといった戦略になっているんですよ。そのパーセントが大変なものなのかまだぴんときていないのですが。でも化学肥料を減らすことが農作物の出来具合を落とすことになるのかもしれないですし、そういったところをどう手助けできるのかなど。それこそ値段が落ちるのなら高付加価値なものにする必要がありますし。そこも含めての戦略・計画になります。私たちが口ではこう言いますが実際するのは大変だと思いますし、そんな肥料の回数も多くなったりするんだと思います。ほんと大変だと思うのでそこも考えていかなければいけません。有機農業をしていくのであれば草刈り、防虫とかはセットになってくると思うので、ここをなんとか専門家にも教えていただき体制づくりをしていこうかなと考えています。

議長 みなさん他に何かございますか。ないようですね。有機農業の推進について事務局から情報提供がありました。随時また報告していただけたことでしたのでよろしくお願ひします。それではこれにて令和4年5月農業委員会定例会を閉会します。ありがとうございました。

議事録署名委員

議事録署名委員